



令和4年を振り返って



早明浦ダム
ホームページ
↑スマホはこちらから



平素より早明浦ダム・高知分水管理所の業務にご理解とご協力をいただき厚く御礼を申し上げます。

さて、本年もはや師走を迎え、なにかと慌ただしい頃となりました。この1年を振り返ってみると、早明浦ダムは昨年末から続いた小雨傾向に加え、下流域域に必要な用水の供給を続けたことにより、2月中旬には貯水率が60%を下回り、23年ぶりの冬渇水に見舞われました。これを受け、吉野川本川では第一次取水制限を行いました。その後貯水率は低下を続け、7月3日には今年最低である29.3%を記録しました。7月に発生した台風4号や5号の降雨により、一時は79%まで回復しましたが、その後は貯水率が低下し続け、8月29日には再び50%を下回りました。9月に来襲した台風14号の降雨により貯水率が全量回復し、9月20日に取水制限が全面解除となりました。今年、管理開始以降最長となる7ヶ月に渡る取水制限となりました。

また、今年も新型コロナウイルスの影響により、地域のお祭りやイベントが中止や延期となりましたが、そのなかでも11月3日には大川村で「謝肉祭」が、11月13日には土佐町において「さめうらの郷湖畔マラソン大会」が感染予防対策を講じながら、それぞれ3年ぶりに開催されるなど、嶺北地域の活気が少しずつ戻っているように感じられます。新型コロナウイルスが1日も早く終息し普通の日常生活に戻れるよう祈る次第です。

最後になりますが、自然にあふれる早明浦ダムを積極的に広報し、水源地域の活性化に貢献できるよう、また、地域の皆様方により一層愛着をもつていただける早明浦ダムになるよう努めてまいります。引き続きご理解とご協力のほど、よろしくお願いたします。

早明浦ダム・高知分水管理所長
富 行穂

★★SDGsの取り組み紹介(4)★★

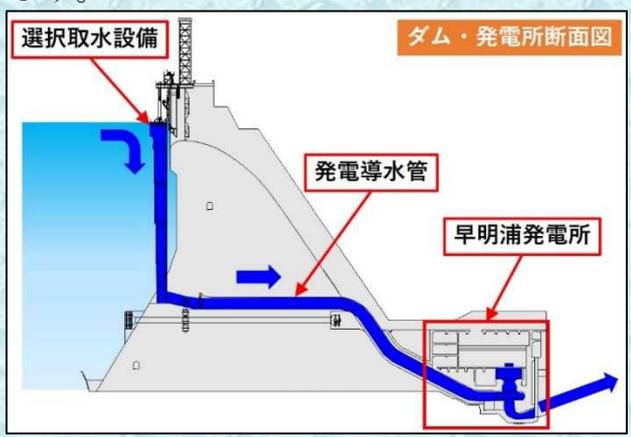
7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

吉野川ダム総合管理事務所
池田総合管理事務所
SDGs
—持続可能な社会づくりを目指して—

早明浦ダムでは、ダム貯水池の水を利用した水力発電を行っています。水力発電は水を高いところから低いところへ流した時の水の勢い(位置エネルギー)を利用しており、水資源という再生可能エネルギーを使用することから環境にも優しい発電方法です。

発電の仕組みは、貯水池から取水した水を選択取水設備・発電導水管を通じて早明浦発電所まで流し、発電所内にある発電用水車を回転させることで発電機が動くようになっています。

早明浦発電所における最大出力は42,000kWです。これは、一般家庭約10万戸分の電力にあたります。



早明浦・上下流交流会

11月18日に大川村の白滝の里周辺の山林で上下流交流会(森林整備)を実施しました。ダム下流域の「NPO新町川を守る会」と協働で、未来「3001年の森づくり」のための草刈りや枝打ち作業に汗を流しました。



さめうらの郷湖畔マラソン大会開催

11月13日に3年ぶりとなる「第38回さめうらの郷湖畔マラソン大会」が開催されました。秋雨の中、約780人のランナーがダム湖畔の豊かな自然の中を走り抜けました。水資源機構からも10名が参加し、全員無事に完走することができました。

会場では、地域の特産品が販売されており、多くの人で賑わっていました。早明浦の自然だけでなく、地域の魅力も感じられる素晴らしいイベントとなりました。



☆☆ 再生事業からのお知らせ ☆☆

■準備工事が順調に進捗 本格的な工事に向けて半年、早明浦ダム再生事業の準備工事を早明浦ダム周辺で行っています。

左の写真は、工事で使用する巨大クレーンなどを設置するための基礎になる部分を施工しています。この他にも、ダンプカーなど大型の工事用車両が走行できるようにするための道路拡幅工事や、工事に必要となる大型の資材を積み立てたり、保管するための場所（施工ヤード）を整備するための工事を行っています。

いずれの工事につきましても順調に進んでいます。引き続き、みなさまのご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。



★ 早明浦ダム周辺のいきものたち(4) ★

水資源機構では、早明浦ダム周辺の環境調査を実施しており、調査で確認された動物・植物をシリーズで紹介していきます。今回はマガモとリュウキュウサンショウクイを紹介いたします。

○マガモ(カモ科)

マガモは、秋から冬にかけて日本に渡来し、水辺(湖、海岸や河川)で見ることがある渡り鳥です。カモの仲間では代表的な種でもあります。全長は55cmほどであり、雌雄で見た目が大きく異なります。雄は頭が緑色、体は淡褐色で胸が栗褐色、くちばしは黄色をしており、遠目には白っぽく見えます。雌は全身褐色で黒褐色の模様があり、くちばしはオレンジ色をしています。

食性は基本的に草食であり、葉や実を食べており、ヒナのときは底生動物も食べています。また、マガモを飼育改良したものがアヒルであり、昔から我々の生活に関わってきた鳥です。

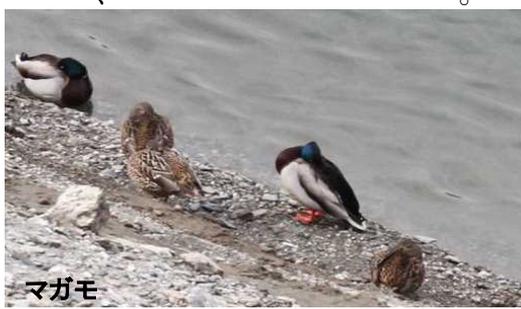
○リュウキュウサンショウクイ(サンショウクイ科)

リュウキュウサンショウクイは、主に森林で生息している、1年を通じて見ることが出来る鳥です。元は旅鳥でしたが、九州南部から生息域を広げ、高知県では定着しています。全長は20cmほどで、体の上面が青みのある黒色で体の下面は灰褐色をしています。また、胸から腹にかけて黒っぽく、喉と額は白色で、額の白色は狭い範囲となっています。

食性は基本的に昆虫食です。今年7月の早明浦ダムだよりで紹介したシジュウカラやその仲間であるカラ類の群れなどに混ざり、行動をともししている様子が、いくつも確認されています。



リュウキュウサンショウクイ



マガモ

